



三重県公立小中学校教頭会

〒514-0003 津市桜橋 2 丁目142

教育文化会館別館 3 階

TEL 059(228)2340

FAX 059(228)2271

E-mail : mieheadt@hyper.ocn.ne.jp



会長就任にあたって

三重県公立小中学校教頭会会長
増 地 陽 一

5月12日（金）に開催されました「三重県公立小中学校教頭会総会」におきまして、私を含め昨年度から留任した4名に新たに就任した4名を加え、8名の新役員を選任していただきました。2年続けて、この重責を担わせていただきますことに、あらためて身の引き締まる思いがいたします。事務局2名と共に、10名の新執行部で、力を合わせて本教頭会の運営にあたっていきたいと思いますので、皆様の温かいご理解とご支援をいただきますようお願いいたします。

本年度、県教頭会は創立50周年の記念すべき節目の年を迎えました。県教頭会を現在のような大きな組織に育て上げられた諸先輩方の努力に敬意を表し、先日の総会の後に、ささやかではありますが、記念式典と祝賀会を開催しました。多くの会員の方々のご出席とご協力をえて、無事終えることができました。ご協力いただきました皆様には、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

また、本年度は、10月26日（木）・27日（金）の両日、「第45回東海・北陸地区公立学校教頭会研究大会」が四日市市で開かれます。今回の大会は、全国公立学校教頭会の第11期統一研究主題「豊かな人間性と創造性を育み未来を拓く学校教育」に基づいて行われる最初の大会であり、今後3年間の研究の道筋をつける大切な大会です。三重の地から素晴らしい実践を発信していきましょう。

さて、昨今の学校を取り巻く厳しい状況を改善し、新たな時代の中でたくましく未来を切り拓いていくことができる子どもたちを育てるため、「主体的で協働的な学習」「道德の教科化」「小学校における英語の教科化」「グローバル教育の推進」など、新たな取り組みが、どんどん教育現場においてこようとしています。私たち教頭は、新しい時代の教育を担う教職員のリーダーとして、卓越した指導力とマネジメント能力が今まで以上に要求されるということを深く自覚し、日々の研修に努めなくてははいけません。また、県内外の仲間達の優れた実践に学んでいくことも大切なことです。教頭としての資質を磨く研究と実践をより充実したものにしていきましょう。

一方、教員の過重労働の実態が社会的にも大きく取り上げられ、日本一のブラック企業と言われている中学校の教師の労働実態にも、ようやく目が向けられようとしています。私たち教頭が置かれている労働環境も大変厳しく、その改善は急務であると言わざるをえません。私たち教頭が、その力を十分に発揮できるような労働環境を整えるため、要請活動にもしっかりと取り組んでいきましょう。

本教頭会が真に「政策提言能力を備えた職能研修団体」となり、子どもたちが輝く未来を提供できる団体となるため、会員の皆様方の力強いご支援とご協力を重ねてお願いし、会長就任の挨拶とさせていただきます。

平成29年度 県教頭会本部役員名

役 職	名 前	学 校 名	名 前	学 校 名
会 長	増 地 陽 一	芸濃中学校		
副 会 長	北 村 協 右	船津小学校	前 田 一 誠	朝陽中学校
”	三 谷 雅 人	西笹川中学校		
書 記	村 田 功	東部中学校	増 田 瑞 穂	阿山小学校
会 計	佐 藤 麗	白子中学校	小 西 正 修	加茂中学校

事務局長	辻 幸 子
事務局員	黒 田 敦 子

mieheadt@hyper.ocn.ne.jp
 URL : <http://mie-kyotokai.jp>
 (ホームページアドレス)

平成29年度 郡市会長・理事名

郡 市 名	会 長		理 事	
	名 前	学 校 名	名 前	学 校 名
桑名市・桑名郡	水 谷 予司之	正 和 中 学 校	小笠原 孝 子	藤が丘小学校
いなべ市・員弁郡	伊 藤 いずみ	三 和 小 学 校	伊 藤 いずみ	三 和 小 学 校
四日市市(小)	松 岡 佳 代	河原田小学校	松 坂 到	中部西小学校
四日市市(中)	松 井 茂 雄	大 池 中 学 校	稲 垣 哲 弥	中 部 中 学 校
三 重 郡	鈴 木 和 夫	鶴川原小学校	内 田 信 司	朝 上 小 学 校
鈴 鹿 市	清 水 英 輝	牧 田 小 学 校	富 井 利 博	大 木 中 学 校
亀 山 市	三 谷 武 治	関 小 学 校	渥 美 厚 子	井田川小学校
津 市 北	庄 山 邦 彦	村 主 小 学 校	植 田 源 嗣	明 小 学 校
津 市 中	前 川 正 登	南が丘中学校	細 井 美 彦	南立誠小学校
津 市 南	長谷川 栄 一	家 城 小 学 校	西 尾 潤 一	久居東中学校
松 阪 市	杉 田 智	西 中 学 校	田 川 敏 和	嬉 野 中 学 校
多 気 郡	寺 井 隆 之	明 和 中 学 校	中 山 恵 子	三瀬谷小学校
伊 勢 市	金 森 晃 生	御 蘭 中 学 校	田 垣 実	豊浜西小学校
度 会 郡	岡 本 康 寿	南島東小学校	小 林 達 哉	南 勢 中 学 校
鳥 羽 市	増 田 直 紀	弘 道 小 学 校	田 中 次 尚	長 岡 中 学 校
志 摩 市	竹 内 靖	鶴 方 小 学 校	東 川 泰 仁	志 摩 中 学 校
伊 賀 市	高 村 傑	中 瀬 小 学 校	福 田 典 明	三 訪 小 学 校
名 張 市	若 山 博 史	箕 曲 小 学 校	澤 正 人	すずらん台小学校
紀 北	内 山 善 教	三木里小学校	芝 田 基 史	向 井 小 学 校
紀 南	小 林 登喜治	神 内 小 学 校	長 嶋 一 朗	神 上 中 学 校

平成29年度 新・任 教 頭 名

7月1日現在

地域	名 前	学 校 名	名 前	学 校 名	名 前	学 校 名
北 勢	角 谷 真 弓	多度青葉小	上 田 眞 人	多度北小	加 藤 久	光 風 中
	藪 中 政 雄	成 徳 中				
	酒 匂 秀 人	海 蔵 小	田 辺 浩 一	川 島 小	天 春 隆 志	三 重 小
	長 崎 雅 子	羽 津 小	山 中 誠 子	神 前 小	三 輪 真裕美	大 矢 知 興 譲 小
	桂 山 幸 和	保 々 小	田 中 直 子	常 磐 西 小	山 田 賢 治	楠 小
	丹 羽 浩 也	笹 川 中	川 本 一 也	三 滝 中	中 村 賢 司	三 重 平 中
	楠 井 久美子	千 種 小	渡 瀬 幹 久	川 越 北 小		
	杉 野 美 佳	庄 野 小	山 本 敏 之	箕 田 小	中 馬 圭 子	合 川 小
	池 田 道 彦	鈴 西 小	草 川 哲 郎	深 伊 沢 小	神 原 亜矢子	清 和 小
	西 村 佳代子	河 曲 小	岡 本 朋 二	旭 が 丘 小	飯 尾 征 博	桜 島 小
津	須 藤 雅 哉	白 子 中				
	三 谷 敏 央	亀 山 西 小	草 川 裕美子	神 辺 小	内 山 睦 之	井 田 川 小
	小 坂 みゆき	亀 山 東 小	平 野 朋 希	中 部 中		
	瀬古口 明子	豊 津 小	木 平 真 弘	安 濃 小	長 井 孝 子	芸 濃 小
	伊 藤 啓 宏	西 が 丘 小	松 本 裕 子	北 立 誠 小	金 児 由 美	敬 和 小
	酒 徳 憲 幸	南 郊 中				
	豊 田 憲 幸	倭 小	濱 政 智 子	戸 木 小	青 木 修	久 居 西 中
松 阪	菊 森 実 成子	第 四 小	後 藤 正 和	第 五 小	田 代 浩 士	幸 小
	大 瀧 郁 子	松ヶ崎小	村 井 清 美	港 小	加 藤 富 雄	徳 和 小
	鈴 木 康 之	中 原 小	中 西 明 美	小 野 江 小	坂 井 陽 子	粥 見 小
	馬 場 泰 史	香 肌 小	尾 崎 充 一	伊 勢 寺 小	塩 野 光 弘	花 岡 小
	平 野 修 子	三 雲 中	藤 本 伸 茂	飯 南 中	楠 堂 晶 久	殿 町 中
	澤 田 泰 子	斎 宮 小	服 部 茂 樹	修 正 小	樋 口 成 伸	大 台 中
南 志 勢 摩 ・	西 川 泰 正彦	大 湊 小	平 生 理 恵	浜 郷 小	中 村 尚 美	豊 浜 東 小
	橋 本 顕 宣	二 見 浦 小	大 井 一 晃	北 浜 中	中 川 靖 美	豊 浜 中
	田 辺 宣 昭	南 勢 小				
伊 賀	藤 山 正 道	成 和 西 小	高 橋 昌 史	府 中 小	谷 本 友 子	柘 植 小
	藪 中 俊 典	壬 生 野 小	隠 岐 徹 司	玉 滝 小	松 本 徹 子	上 野 東 小
	岡 島 加世子	友 生 小	松 田 久 英	依 那 古 小	林 康 子	青 山 小
	峯 晴 美	城 東 中	松 岡 英 紀	上 野 南 中	奥 理	霊 峰 中
	中 川 裕 晴	大 山 田 中				
	中 谷 佳 代	蔵 持 小	山 本 和 弘	つつじが丘小	前 田 かおり	梅 が 丘 小
	三 村 まゆみ	桔梗が丘小	山 村 浩 由	桔梗が丘中		
紀 北	大 藤 明 美	矢 浜 小	畑 中 祥 司	三 木 小	矢 賀 正 之	賀 田 小
	東 珠 海	赤 羽 小	堀 讓 介	引 本 小	植 前 健	赤 羽 中
紀 南	山 川 雅 己	井 戸 小	中 谷 道 弘	有 馬 小	上 林 和 弘	五 郷 小
	門 伸 也	木 本 中	川 合 哉 典	五 郷 中	齋 藤 隆 彦	成 川 小
	喜 田 功	御 浜 中	大 久 保 和	阿 田 和 中	東 浦 良 幸	尾 呂 志 学 園 中



101名の方が本年度新しく教頭として着任されました。フレッシュな声をお届けします。



「チーム青葉小の 一員として」

桑名市立多度青葉小学校
角 谷 真 弓

この春、教頭として多度青葉小学校に赴任した。今まで経験したことのない業務に大混乱の中、始業式の日を迎えた。新学期が始まって3日目、ある保護者の方から電話があった。お子さんの友だち関係についての相談だった。放課後、担任・生指担当・専科・養護、その学年の子ども達に関わりのある先生方で、対応を相談した。事実確認や指導のあり方について共通認識し、役割分担もしながら子ども達の指導にあたった。いろんな面で、まだまだ丁寧に向き合う必要のある子ども達ではあるが、その子にも保護者の方にも笑顔が戻った。みんなで協力できる職場であることに感謝し、私自身も「チーム青葉小」の一員として、「安心・安全な学校」「信頼される学校」づくりに努めていきたい。



新しい発見

四日市市立常磐西小学校
田 中 直 子

本校は、四日市市内の小学校で一番児童数が多い学校である。当然、職員も多い。4月に赴任し、職員の名前を覚えることだけでも精一杯であった。

そんな中、職員室から見える校庭に隣接する吉田山の桜は見事であった。毎日、余裕なく仕事をしていた自分の心を癒やしてくれた。そして、この吉田山は、子どもたちにとっても絶好

の活動の場となっている。ブランコ、坂滑り、メダカ池、小屋づくり、木の実など、季節ごとに楽しませてくれるらしい。

学校、子ども、保護者、地域のことなど、これから、新しい発見ばかりで楽しみである。教頭としての自覚を持ち、何ができるか、何をすべきかを考えながら日々を過ごしたい。



「新校舎とともに」

四日市市立笹川中学校
丹 羽 浩 也

4月当初、新任教頭として着任した学校の校舎は完成したばかりで、何もかもが新しく、その校舎をさらに華やかにしようと、周辺に咲き誇る満開の桜並木……。その立派な新校舎や桜の美しさに目をやる余裕すらない教頭職のスタートでした。多くの諸先輩方から、教頭職について色々聞かされてはいたものの、想像以上の仕事量に圧倒され、改めて己の無力さを痛感させられました。しかしそんな中、校長先生はじめ、職員のみなさん、前任の教頭先生や、これまで繋がりがあった先生方の多くの温かい言葉や助言、励ましに支えられ、何とか務めを果たしてこられたように思います。まだまだ経験や勉強不足のため、失敗も多いですが、少しずつ身に着けたことを、お世話になった方々や子どもたちに恩返ししていけるよう、新校舎とともに歩んでいきたいと思っています。





転 職 ？！

菰野町立千種小学校

楠 井 久美子

「転職したと思いなさいね」3月末日、教頭としての着任前日、お世話になった校長先生からいただいた饞の言葉の一つです。その言葉の通り、新しい仕事は今までとは全く異なる世界でした。次から次へと押し寄せる書類の山に途方にくれる、まさに怒涛の日々を過ごしていました。しかし、職場の先生方や、保護者や地域の方々・・・いろいろな方々と、子どもたちを真ん中においた幅広い会話ができるようになりほんの少しですが、教頭職の楽しさが感じられる余裕も出てきました。

三つの『意』・・・『熱意・誠意・創意』を心に、すがすがしい鈴鹿の山々に向かって深呼吸し、今日も1日がスタートします。



無 題

鈴鹿市立白子中学校

須 藤 雅 哉

四月、新しい職場で教頭としての仕事がスタートした。しかし、専らの心配事といえば、四月から社会人の仲間入りをした息子のことである。「職場にうまく溶け込むことができるだろうか。」「苦難に接して、辞めたいなどと言い出さないだろうか。」と。

そんな私の心配は杞憂に終わった。日々、課題を抱えながらも、充実した面持ちで帰宅する。翻って、私と言えば、主幹教諭の経験はあるものの、教頭職は全く別物。もう一人の教頭先生の助けを借りながら、やっとの思いで一日一日を乗り切っている。帰宅して、言うまいとは思っていても、つい弱音を吐いてしまう。それを聞いた息子が「そんなこと言うんやったら、ならんだらよかったやん。」と返す。そうだ、その

通り。自分で選んだ道。やるしかない。心が定まった瞬間だった。



「ありがとう！ また明日!!」

亀山市立神辺小学校

草 川 裕美子

緑いっぱい、花いっぱいの神辺小学校。放課後の運動場は子どもたち、卒業生、お家の人たち、ボランティアの方たち…地域の公園のようにいろいろな人たちが集まってきます。小さな学校だけれど人の流れは大きくて、たくさんの人たちに支えられているのだと感じる毎日を送っています。わからないこと・気づかないこと・一人ではできないこと…そんな時、助けてくれる人たちがいます。知らない間に助けてもらっていることも、助けてもらっていることに気づいていないこともあるかもしれません。「ありがとう」で始まり「ありがとう」で終わる。そして「また明日もがんばろう」と思う今日この頃です。



「みんな笑顔で」

津市立芸濃小学校

長 井 孝 子

「教頭先生、今日もわたし通学団で歩いてきたよ！」元気に声をかけてくれる1年生のAさん。4月初め、「学校に行かない！」と泣いていました。うまく伝えることができない子もいますが、どの子も「安心して学校に行きたい」という気持ちをもち、保護者の方もいろんな迷いや期待をもって学校に子どもを送り出してもらっています。そんな子どもや保護者の思いを丁寧に聞き、先生方と話し合いたいと思っています。

しかし、私は慣れない仕事に戸惑うことが多く、校長先生はじめ先生方や地域の方に助けて

いただく毎日です。どの子も保護者も先生も笑顔で過ごせるように「チーム芸濃小」の一員として頑張りたいと思います。



「支えられ…」

津市立南校中学校

酒 徳 宏

新任教頭として南校中に赴任して、まもなく2ヶ月。連日、調査や報告等の文書処理に追われる日々を過ごした。しかし、膨大な文書から「学校」は、様々な人々や組織、機関に支えられていることを改めて知ることができた。また、南校中学校区家庭学習支援本部が運営する今年度の「南校ナイトスクール」の準備も慌ただしく進んでいる。これもまた、地域にあるたくさんの企業や人々に支えられ運営されている。この2か月、超多忙な日々が続いているが、ほんとうにたくさんのことを学ぶことができた。これまでの先輩たちの築いてきたものを受け継ぎ、地域から愛される学校づくりに尽力していきたいと思う。誰かを支えることができる教頭をめざして…。



「出会いと つながりを大切に」

津市立倭小学校

豊 田 憲 幸

久しぶりの学校現場。しかも、長年勤めていた名張市ではなく、津市の小学校。もちろん初めての教頭。大きな不安と緊張の中でのスタートでした。

そんな中、明るく素直な子どもたち、心温かく協力的な保護者や地域の方々、そして、笑顔たえない先生方に支えられ、戸惑いながらも頑張っています。子どもたちの笑い声や笑顔が、私を元気にしてくれています。

これからの貴重な時間を、子どもたち、保護

者・地域の方々と共有することで、より信頼される学校づくりに参画していきたいと思っています。そして、学校が、学び合いと育ち合いの場所となるよう、精いっぱい努めていきたいと思っています。



「自分を 問い直す日々」

松阪市立中原小学校

鈴 木 康 之

「学級担任などに求められる能力と教頭に求められる能力は違うはず。」とぼんやりと思っていたのですが、同じ学校という職場に勤めながら、その仕事の違いに戸惑う毎日です。

日々教頭の仕事を行う中で、今まで仕えてきた教頭先生にさせていただいたことで、ありがたかったことはどんなことだったか振り返ってみると、まず、学級経営や保護者対応で困ったときに、具体的なアドバイスを示していただけたことが一番にあげられます。また、学校長の教育目標や方針を実践の中にどう生かしていくか理解しやすいように教えていただいたことで、自らの実践を考え直したり、自信をもって教育活動に臨んだりすることができました。

教頭の職務は多岐にわたりますが、教職員から相談されたときの確に答えられる情報やノウハウの蓄積をもつことや、目指す学校像への深い理解が求められると思います。そして、何よりも教職員が相談しやすい関係づくりが大切であると考えています。

ここまで書いてきて、「さて自分にはそんな能力や資質があるのだろうか。」と自問自答すると暗澹とした気持ちになってしまいます。しかし、やるしかありません。信頼される教頭になれるよう日々努力を重ねていきます。





「失敗して 伸びる」で

大台町立大台中学校

樋口 成伸

9年間勤務した前任校からの異動でした。大台中は初めての勤務校、教頭という初めての職種、大台町も初めての町と、初めてづくしです。期待と緊張の半面、不安も強く感じました。

前任校では学年主任や研究主任、教務、進路、PTA会計と経験し、少しは分かるかなと思っていましたが、所変われば様子も変わり馴染めないなぁと悩んでいると、「何が何処にあるか覚えられん！」と悩まされ、結果、「前任の教頭先生に電話をするのは何回目か？」という事態に。今の一番の悩みは、この1年間が見通せないということ。何とかしないと。あ。

PTA総会の自己紹介の、その時、急に言葉が舞い降りました。「褒められて育つタイプ？」、いやいや今の自分は「失敗して育つタイプ」「失敗で終わらせず」でいこう！ 何人もの教え子に言ってきた言葉である。

「チーム大台中」は盛り上がる時はみんなで盛り上がるチーム。そんな職場のみなさんと大台中の取組を通し、自分自身の育ちを楽しみつつ、生徒・学校の成長を目指し頑張りたいと思います。



今日も笑顔で

伊勢市立豊浜東小学校

中村 尚美

胸が高鳴る新学期の始まり。先生たちや子どもたち地域の方との出会いなど、わくわくすると同時に不安と緊張が入り混じる。着任式の自己紹介で「じゃんけんが弱いです。確かめたい人はじゃんけんをしにきてください。」と伝え、私が負けるまでじゃんけんを続けるかわい子子どもたちがいる。報告事務に追われると

余裕をなくし、そんな場面に出会えない日もある。きっと、職員室の先生たちにも忙しいオーラを見せてしまっているかもしれない。「話をきいてもらいたいなあ」「相談しようかな」そう感じられる心のゆとりをわすれないでいたい。うまくいったことは共に喜び、難しい場面ではピンチをチャンスに転換できることを信じて、前向きに考えたい。さあ、今日も笑顔で！



一期一会

南伊勢町立南勢小学校

田辺 宣昭

ご存知のように「人との出会いは一生に一度だけだから大切にせよ」という意味である。

特に学校という場所は、「出会い」と「別れ」が多い。私は今までの人生の中で何人と出会い、何人と別れたのだろう。

「出会い」も「別れ」も偶然という言葉では片づけられない運命的なものだと思う。

大学卒業後、民間で勤めていたが、ある人々と出会って三重県で教員になろうと決めた。

思い起こすと自分は、何と多くの人に支えられてきたかを実感する。一方、自分も誰かの支えになっているのかと振り返ることもある。

これからも、初めて出会う人でも、かけがえない出会いであることを肝に銘じ、大切につき合って行こうと思う。



「心新たに！」

伊賀市立依那古小学校

松田 久司

4月から新任教頭として依那古小学校に赴任しました。市教育委員会の文化財部局に10年間（通算すると16年間！？）勤務しての学校現場復帰で、全くの浦島太郎状態の私ですが、日々の業務に追われながらも、子どもたちの元気な

声や先生方の働きぶりに、「ああ、やっぱり学校っていいな。」「子どもたちっていいな。」と、日々実感しています。

そう思えるのも、校長先生をはじめ職場の皆さんに温かく支えられ、仕事をカバーしていただいていることに他ならず、肝に銘じながら仕事に向き合う毎日です。校区には文化財を通して一緒に整備事業に関わった方々もおられ、これからも人とのつながりを大切に務めていきたいと思います。



「つながることを 目標として」

名張市立蔵持小学校

中 矢 佳 代

新しい職場で、教頭としてスタートしてから早くも2ヶ月。「きょうとうせんせい、おはようございます!」と、かけよってくる子どもたちの笑顔で気持ちの良い1日が始まります。思い通りに仕事はかどらない毎日ですが、「教頭先生、やっておきます。」「ゆっくり休んでくださいね。」という、職場の皆さんの優しく温かい言葉に心が癒やされると同時に、「よし、がんばろう!」と、やる気も出てきます。

「パソコンに向かって仕事をしても、学校は変わらないよ。」という先輩の先生からいただいた言葉。この言葉を忘れず、子どもたちと触れ合う時間を大切にすること、新しい「人」との出会いからつながりを深めていくことを目標にがんばっていきます。



「あっという間の 2ヶ月」

紀北町立引本小学校

堀 讓 介

32年間勤務した中学校という職場から小学校へ、しかも教頭という新しい職での移動。

この2ヶ月足らずの間に、何度となく新しい

経験をすることがありました。その都度、学校には自分の知らないことはいくらかもあると気づかされる日々でした。その中で、めげることなくやってこれたのは、学校長をはじめとする職場の皆さんの温かい対応のおかげだと感謝しています。

今後、その温かさに報いるためも、「教頭先生」と呼ばれるのに相応しい教頭になれるよう精進していこうと考えています。

今日も、初めての経験をしました。現在80kg近い私に、「トトロ」「トトロ」と呼びかけてくる子どもが数人…。「ハクと呼べ」と言っておきました（かなり無理がありますが）。

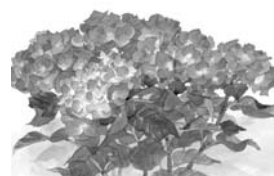


子どもたちにつけたい 「学力」とは?

御浜町立阿田和中学校

大久保 和 典

県教育委員会勤務のため、自宅を離れて津市で9年間暮らしていました。そんなある年のこと、誘いを受けたプライベートな会合で、在京都フランス総領事の隣席になりました。美味しい酒を飲みながらでしたので、会話も弾むところだったのですが…。積極的に話すことができなかったのを覚えています。しかし、それは言葉が壁となっていたのではなく、私自身の「知識」の少なさであったように振り返ります。とりわけ、多様な人々とのコミュニケーションの場においては、自国の文化を語れるくらいの知識は必要であることを痛感しました。現在、よりグローバルな時代を生きるであろう子どもたちを前に、本当に必要な知識や技能等は何かを問いながら日々奮闘しています。



ふるさと再探訪

伊賀市立上野西小学校 築田 マリ子

伊賀に生まれ暮らして、はや半世紀！昨年初めて校区の子どもたちがたくさん参加している「上野天神祭」を見物した・・・と、言ったらかなりの人に驚愕された。驚くではなく、まさに驚愕の体であった。子どものころから、①行くのに時間がかかる（自宅は市の中心部からバスで50分ほどの場所）。②あんな華やかな祭は街の人のものだという思い込みがあり、さらに成人して職に就いてからは③駐車場が見つからない、または遠い場所にある④平日に仕事を休んでまで祭り見物に行けない、等々の理由でなんとなく行けなかっただけなのである。周囲からの『ダンジリも、ひょうつき鬼も見ることがないなんて信じられない！ほんとに伊賀人か？』という射るような視線が突き

刺さった。

このことで、いくつかの教訓を得たのだが、人は自分の考えに大多数が賛成してくれている状態においては、みんながそうだと思い込んでしまいがちである。祭見物においてはマイノリティであったが、自分もなにかしらの場面でこんな思い込みはしていないだろうかと、振り返させられた出来事であった。

しかし、ユネスコ無形文化遺産にも登録された「上野天神祭」はさすがに豪華絢爛で、ふだんとはちがう緊張した面持ちで鬼に扮したりダンジリの上で鐘や太鼓を演奏したりする子どもたちのかわいい姿に、『もっと早く見に来ればよかった。』と、少しばかり後悔の念を禁じえない私であった。



郡市だより

総勤務時間の縮減は学校行事などの見直しから

名張市立すずらん台小学校 澤 正 人

以前から総勤務時間の縮減が課題となっていました。昨年度夏に行った校内労働安全衛生委員会では、小学校である本校の場合は行事が多いこと、実施計画などの書類作成や関係機関との調整など、準備に費やされる時間が膨大であることなどの意見が出されました。あわせて準備にける時間を平日に生み出せないか、日課の見直しも行うこととしました。

それぞれの行事を、廃止・縮小・継続・統合などに仕分けしようとしたのですが、それぞれの行事はよく考えられているものばかりで、これまで継続されてきたのはそれなりに教育的意義や効果があることが明らかとなりました。とはいえ、いくつかを統合・縮小できました。

さらに、平日の授業時間以外の時間的余裕を確保するため、会議のない水曜日を月1回確保するようにしました。

これらの議論を重ねる中で、学習指導要領の改訂による時間数増（3～6年生）への対応も課題として浮上し、同時に朝の活動が、開始（8時20分）から9時35分（1限目終了）まで1時間15分も継続していることも、あわせて問題提起されました。そのため、朝の学習時間を15分間として、今後のモジュールに対応できるようにし、以下時刻を繰り下げて昼休みを

5分増やしました。子どもたちの「自由時間」を増やすとともに、現実には教員がノートや連絡帳を見るなど、事務作業の時間を確保することもできました。

本年度は、職員の帰宅時刻が若干早くなったように感じます。子どもをめぐる様々な問題は起こりますが、素早く対応し、帰宅して英気を養い、翌日も集中して解決するサイクルができるようになってきたように思います。

昨年度の見直しは、夏を端緒に秋から冬にかけて、職員会議や研修会で5回程度の議論を重ねました。しかしながら、積み残した課題も多くあります。

とりわけ、職員の合意は得られても「来年度から廃止します」という決定は非常に難しいものがあります。保護者や地域、そして子ども自身の理解と納得を得られるよう、およそ3年後を目指して、「提案し反応を見る1年目」「具体的な代案を提起し、スケジュールを示す2年目」「既定路線として揺るがず実行する3年目」といった息の長い

取り組みが必要であると感じました。だからこそ職員全体で継続的に取り組むという経験（体制づくり）が大切になります。

不断の改善努力が、職員の高い意欲を維持すると信じて、取組を続けます。

